

私の読書活用法

koberyo1

私の家の近所に『ブックオフ』という古本屋ができてひさしい。かれこれ十年から十五年前くらいになるだろうか。NTTが退去したビルに店舗をかまえた。もともとは電話局、すなわち電々公社があったところで、昔は電話交換機なるマシンが稼働していた場所である。そこにいま、たくさん本が並んでいる。世の中の動きはここにもあらわれていると思うし、おもしろい。

わたしの購入する方法だが、まず金曜から土日を狙う。この三日間は、赤いのぼりの旗がはためき、古本の価格が「半額」となるセールであることを告げている。

このころはめっきり掘り出し物というか、珍本が少なくなってきたが、それでも100円（プラス消費税だが）のシールが貼られた良書を見つけたときは嬉しい。最近では100円均一だったのコーナーに200円の本が混じるようになってきたが……。

あと狙うのは紙箱に入ったハードカバー本だ。なかには手垢のついていない新刊本にも劣らない美しい本を見つけたときの喜びはひとしおである。「日本の歴史全集」の欠番ものとかNHK出版の「日本探訪」のシリーズ、それから「永井路子全集」の欠番、はたまた古典では「史記」の欠番などもある。こうした全集の端本を一冊ずつご近所のブックオフで買い揃え、全集をあらためて作り上げてゆくという楽しみ方もある。

それにつけても昭和という時代は、一冊の本を作るのに、それこそ膨大なマンパワーとコストを傾けた時代だな、ということをひしひしと痛感する。もう二度と出版不可能と思われる豪華な「世界美術全集」が、タダ同然の値段で手に入るのもブックオフならではの醍醐味であるだろう。

ともあれ、ほとんど新刊本とっていい綺麗な本が、半値か100円という金額で集められるのだ。私はこれを「遊び」、すなわち一種のゲームのような楽しみ方と考えている。

手元にどんどん本が集まってくるのは、本の収集家にとっては小気味いいこと、この上ない。

こうした方法で、わたしはもう二度と手に入らない掘り出し物を数多く入手した、と思っている。

そうなってくると蔵書の収納スペースの問題が生じてくる。ついには4.5帖の書庫の天井まで本によって占拠されてしまった。というわけで元からあった書庫は満杯状態というありさまである。

なので他に美術書専用の書庫を作ったり、応接間には歴史ものを並べる書架を置いた。玄関の棚には人間関係の書、勝手口につながるバックヤードには文庫専用の棚を多数設置した。寝室兼仕事場には事典などを置いてある。他にも紙箱に入った本も多いので、それ専用の棚を作り、じつに我が家は本だらけだ。

わたしは何らかの影響力を子どもたちに与えたいと思っている。心の財産を子孫に残したいのだ。本を読むこと、すなわち教養を高めることは人間の心を豊かにし、ひいては人間として成功することではないか、と思っている。人間はその生涯のうちで、幾多の経験と遭遇をかさね、それを土台に人生から学ぶことも多々あるだろうが、一方に偏らず、円満な考え方をもたらすものとして本があり、読書という習慣がある。だから子どもたちには、わたしの蔵書を贈りたいのだ。お金持ちが成功のゴールだという見方もあるが、やはりお金だけでは幸福にはなれない、と思ったりもする。

人の究極の幸福とはなんだろう？ それは安心した心境に到達することだと、わたしは考える。

そんな安心の境涯にいたるための手段としての本があり、またそのような効用を離れ、ただ、ひたすら読む楽しむだけの読書もある。

ただ一つ言えること。それは本がわたしにとって少なからず安心の象徴、すなわち幸福にひとしいものになっている、ということだ。

わたしはこうして日々、コツコツとわたしのオリジナルの幸福を集めている、というわけなのだ。

